

学びのスイッチ

— 男女共同参画 A to Z —

このコーナーでは、男女共同参画に関する基本的な情報をお伝えします。

2023年度は SDGs が掲げる目標について、ジェンダー視点から現在の課題をとらえていきます。

2030年の目標達成に向けて、すべての目標にジェンダー平等がかかわることについて、掘り下げていきます。

ジェンダーレンズで読み解く SDGs 第9回 気候変動とジェンダー平等に統合的に取り組む



遠藤 理紗

■気候変動とジェンダーの交差性

国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP) では、途上国を中心に、気候変動によって女性や少女が不均衡に被害を受け、生きる権利が侵害されており、早急な対策を訴える声が多く聞かれます。気候変動の悪影響は皆が受けますが、性別による役割・権利・責任など既存の格差 (情報へのアクセス・行動の自由・財産所有の制限など) によって、女性や少女の方が被害を受けやすいケースが多いためです。たとえば、女性や子どもは自然災害時に死亡する確率が男性の14倍¹⁾と報告されています。また、干ばつで少女の水汲みの負担が増えて教育を受けられなくなる、災害時に女性・少女への性暴力が増える、妊産婦や乳児が医療サービスにアクセスできなくなるといった状況が生じ、ジェンダー平等の達成にも悪影響が及びます。マララ基金は、2025年までに気候変動が毎年少なくとも1,250万人の少女の教育修了を妨げる要因になりうると指摘しました²⁾。教育機会の喪失は、情報へアクセスしづらくなるなどの観点から、気候変動に対する適応力の低下や対策への参加機会の減少を招くことが懸念されます。

災害や紛争など社会が混乱状態に陥った際に、既存の格差や社会の脆弱性が顕著に現れます。日本でもコロナ禍で貧困やDV被害が深刻化しました。気候変動による被害は社会の脆弱性や格差を

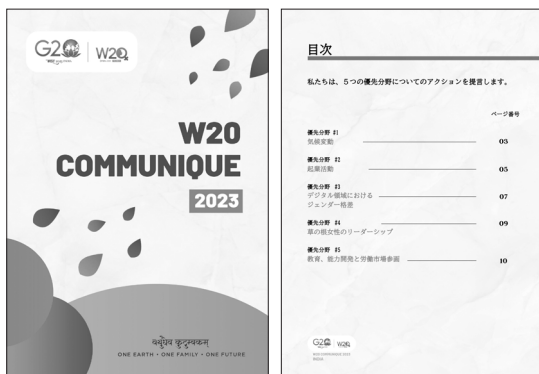
悪化させるとともに、既存の格差や脆弱性が気候変動の悪影響に対する適応力や対策への参加機会にも負の影響を及ぼすと考えられます。

■ W20 (Women 20) での気候変動に関する議論

W20はG20のエンゲージメントグループで、ジェンダーに関する政策提言を行っています。2023年は、議長国インドが女性主導の開発を掲げ、気候変動も含め5つのテーマでG20首脳への政策提言書 (コミュニケ) を作成し、6月のW20インドサミットでG20シェルパに手交しました。

W20サミットでは、女性社会・経済・文化的要因による脆弱性によって不均衡に気候変動の影響を受けており、また対策への意思決定の権限が制限されている場合が多いことが改めて強調されました。また、女性も気候変動対策の重要な担い手であり、女性起業家のビジネスや地域の草の根女性たちの知識・ノウハウなどが気候変動対策に貢献しているとし、グリーン経済のための能力開発に重点をおくことや、女性が気候資金にアクセスしやすくなることが提起されました。

9月に発表されたG20ニューデリー首脳宣言では、66項でジェンダー平等を気候変動への行動加速の中核に据え、気候変動などに関する政策枠組における女性の参加・連携・意思決定・リーダーシップを支援することなどが記述され、W20が



手交された W20 コミュニケの表紙と目次



G20 シェルパへの W20 コミュニケ手交

提言している「すべての気候関連政策は、包摂的で平等で公平なジェンダー・アプローチをとらなければならない」といった点が盛り込まれました（G20首脳宣言に気候変動とジェンダーに関する考えが入ったのは初めてとのこと）。

■日本の課題と展望

日本国内でみると、SDGs のゴール間のシナジー（相乗効果）を生み出そうとする取組が増えています。気候変動とジェンダーに関する議論はいまだに十分でないように感じます。以前よりは、関連性は認識されつつありますが、これらを統合的に進めていくことが必要です。

そのために、まず優先課題・取組の明確化やジェンダー別データ収集・活用が重要となるでしょう。W20では女性・少女が受ける異なる影響を示すデータを意思決定や資金調達に活用する必要性が指摘されましたが、活用できるデータ・事例・ニーズをさらに収集しつつ、国や自治体などの気候変動関連計画・予算・実施・評価にそれらを反映していくことが必要です。

また、気候変動対策に取り組む女性の資金へのアクセスも含め、さまざまな現場・レベルにおける能力向上支援や、女性の待遇改善など既存のジェンダー格差を克服するための取組も不可欠です。そして、W20でも言及されたように、女性の

リーダーシップやジェンダーと気候変動に対処する政策をもたらす政治的意思によって、実践を後押しすることも求められます。

今後、気候変動に関する議論・意思決定の場へのジェンダー平等に取り組むステークホルダーの参加や気候変動対策へのジェンダー主流化を進めていくことにより、ジェンダー平等の取組と気候変動対策が統合的に進められ、相乗効果を生むような環境が整備されていくことを期待します。

[注]

- 1) UN Women “SDG 13: Take urgent action to combat climate change and its impacts” <https://www.unwomen.org/en/news/in-focus/women-and-the-sdgs/sdg-13-climate-action>
- 2) Malala Fund “Malala Fund publishes report on climate change and girls’ education” <https://malala.org/newsroom/malala-fund-publishes-report-on-climate-change-and-girls-education>

ちょっと深ぼり

- W20 2023年コミュニケ日本語版
<https://w20japan.org/news/163>
- JACES プリーフィングペーパー「ジェンダーと気候変動～UNFCCC・COP26での議論から～」
<http://jaces.org/report/1695>

えんどうりさ：NPO 法人「環境・持続社会」研究センター（JACES）事務局長。企業勤務を経て、2014 年より JACES にて気候変動・SDGs に関する政策提言等に従事。CAN Japan 役員、ESD 活動支援センター企画運営委員、SDGs Japan 事業統括会議進行役、W20 日本デリゲート等も務める。